



倍率×62で撮影

アンモライトの表面

撮影・文 高橋 泰氏

イリデッセンスを生じるカナダ産のアンモナイトの化石は通称アンモライトとして流通している。アンモナイトは中生代に大繁栄したため、世界中から産出報告があるが、美しい干渉色がみられるのはここだけだ。表面にアラゴナイトの薄層が生じて光の干渉が起きるため、層の厚さによってカラフルな色がみられる。層厚が薄いと青系の色が、厚いと赤系の色が生じる。写真は橙色～黄緑色のグラデーションを発色している。同じ産地でも全てアンモライトになっているわけではなく、10%ぐらいであるといわれる。表面の層が厚いものはそのまま研磨して宝石素材になるが、薄いものは無色の素材、合成のスピネルなどで表面をカバーしダブレットにする。